

日口関係…歴史と現代

神奈川大学特別招聘教授

しもとまい
のぶお
下斗米 伸夫

- *サンフランシスコ講和条約を再考する
- *戦後処理で米ソの利害が衝突
- *現在の国際情勢は「学級崩壊」状態
- *プーチンのアメリカ観
- *ウクライナは米ソ対立の震源地
- *中東におけるトランプ政策の背景
- *内政重視に転換したプーチン
- *アジアシフトするロシアと国境問題
- *北方4島問題を考える
- *プーチンが抱えるジレンマ



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日はロシアの専門家であります下斗米先生
においていただきました。長年、法政で教鞭を
とっておられました。現在、神奈川大学に移
られておられます。

日口関係は安倍政権の下で解決ができるので
はないかという期待が非常に高まったわけです
が、今年になってからロシア側の空気が非常に
冷たいものになりました。どうもはかばかしい
進展が今のところ期待できないという状況でご
ざいます。何が原因でどうしてこういうことにな
っているのか。そしてさらに、日口の懸案の
北方領土というものをわれわれが歴史的に完全
に理解しているかどうか。ちょっと怪しい面もご
ざいます。日本側はこれが政治的なイシューで

ございますから、いろいろな立場の人が物を言
うということですが、今日は冷静な目で日口関
係のこれまでと現在の状況について先生からご
説明をいただきます。それではよろしくお願
いいたします。（拍手）

サンフランシスコ講和条約を再考する

下斗米 ただいまご紹介しました、今年4
月から神奈川大学に移りました下斗米と申しま
す。去年もこの席で東郷元大使や何人かの方と
一緒に第4期プーチン政権発足時のロシアに
ついてお話しさせていただく機会がございま
したが、今日は日口関係に絞ります。1週間前も
日米中口というプロジェクトでモスクワにお
りましたし、3月には日米口というプロジェクト